

社会科学系女子になる

シャカジヨに
なる！

検事などの法曹界や、
公務員・銀行員といった堅実な職業、
アナウンサーなどのマスコミ業界……。
日本大学法学部OGたちは、
幅広いフィールドで今日も活躍しています。
また、海外に留学して学びを深めたOGもあります。
社会科学系女子(シャカジョ)ならではの将来、
そして夢をかなえた5人を紹介します。

Be A SHAKA JO

社会科学系
女子になる！

1

梶原 明日香さん P4

2000年3月 法律学科卒業
東京地方検察庁 立川支部 検察官検事
※取材時。現在は東京法務局訟務部付検事。



三石 佳那さん P5

2014年3月 新聞学科卒業
新潟放送アナウンサー

2

3

西村 志麻さん P6

2012年3月
管理行政学科(現・公共政策学科)卒業
千葉県松戸市役所勤務



4

岡田 奏恵さん P7

2015年3月 政治経済学科卒業
2015年4月より三井住友銀行に勤務



5

松倉 佳穂さん P8

2015年3月 経営法学科卒業
中国・山東大学に留学経験



1

OG(法曹)

立場の弱い人たちを助きたい

大学時代はラーメン屋でアルバイトをしたり、友人とテニスをしたり。法曹には人間関係を構築する力も重要なので、これらは良い経験になりました。法曹をめざす方は、大学で知識を身につけ思考力を養うとともに、人との関わりを大切に、様々なことにチャレンジしてください。



東京地方検察庁 立川支部 検察官検事 梶原 明日香 さん (2000年3月 法律学科卒業)
※取材時。現在は東京法務局訟務部付検事。

高齢者や児童、障がい者など、いろいろな意味で立場の弱い人たちが、刑事事件の被害に遭っています。そういう人たちのために、事件の真相を解明し、法律に則って正義を実現する。その志高い検事の仕事を知り、入学後に弁護士から志望を変更しました。検事となった現在も、そこにやりがいを感じています。仕事は男性と対等ですが、女性や子どもに対応する時は女性検事が必要とされることも多くあります。

検事をめざした大学時代、仕事と育児の両立をめざす今

大学4年間 司法試験合格をめざして勉強

1年次から司法科研究室に入室しました。3年次には司法試験合格をめざすゼミナールに所属し、試験対策を含めて、法曹としての基礎となる法律の考え方を学びました。「人の倍以上の勉強をしないと司法試験には受からない」というゼミナールの先生の叱咤にもかかわらず、4年次に司法試験に初挑戦して失敗し、それから猛勉強を始めました。卒業後も司法科研究室の講座などで勉強し、卒業年の司法試験に合格することができました。

現在 仕事をしながら子育ても

検事は全国を転勤するので、任官後は鹿児島や札幌、新潟など各地の地検を経て、現在の東京地検に至ります。その間には1年間の産休、育休もありました。一度に多くの事件を担当することもあり、事件ごとに関係者の話を聞いたり、判例を調べたり。裁判の日程などに合わせ、限られた期間内で事件の事実を解明しなければならないことも多いため、帰宅が遅くなることもあります。家族の協力などを得て、仕事と子育てを両立しながら頑張っています。

将来 もっとスキルを磨きたい

法務省をはじめ、ほかの省庁に出向するなど、検事には検察以外にも幅広い仕事があります。でも、私は捜査や裁判などの現場の仕事にずっと関わっていきたい。そのためにも、現場の知識や経験を積んで、さらにスキルを磨いていきたいと思っています。近年は裁判員制度が導入され、裁判でわかりやすい説明をすることも求められるようになりました。そのような力も磨いて、現場のエキスパートになるのが目標です。

社会科学系
女子になる!

2

OG(マスコミ)

心を開いて素直に伝えること

先生、先輩、友人……多くの人に支えられアナウンサーに

大学4年間 たくさんの人に支えられた

入学前からジャーナリズムに関心がありました。アナウンサーになりたいという気持ちが高まったのは、ジャーナリズムに関する授業が興味深かったからです。1年生の時、マスコミ業界で活躍する日本大学法学部OB・OGと交流できる「マスコミ業界研究セミナー」に参加しました。現役アナウンサーの先輩から就職活動に関するアドバイスをいただくなど、とてもお世話になりました。就職が決まるまで支えてくださった先生や友人たちにも感謝しています。

現在 幅広く仕事に携われる

テレビ、ラジオの定時ニュースや天気予報のほか、情報バラエティ番組のMCも担当しています。報道からバラエティまで、幅広く何でも挑戦させていただいています。やりがいはいっぱい、いろいろな人に出会ったり、ちょっと普通の人ではできない経験が仕事でできることです。ただ不定期に入ってくる仕事もあり、時間やシフトが決まっていないので、体力勝負のようなところもあります。スポーツなどでの体力づくりや健康管理も欠かせませんね。

将来 番組制作にも関わりたい

入社してまだ2年目なので、皆さんに親しみを持っていただけるアナウンサーになることが目標です。また、学生時代に、「どうやったら伝わるものをつくれるのか、常に考えなければいけない」とおっしゃられた先生の言葉がいつも頭にあり、ゆくゆくは番組制作にも関わってみたいですね。自分が追究したいテーマを探し、取材から編集、言葉を紡ぎ出すまでのすべてに関わって、思いを伝えることができれば、と思っています。

発声や話し方などのトレーニングも大切ですが、アナウンサー志望の方は、サークル活動でも旅行でも何でもいいので、何かをした時に自分がどう感じたかを文章や言葉で残す習慣をつけておくと、それが後で活きてきますよ。



新潟放送アナウンサー 三石 佳那さん (2014年3月 新聞学科卒業)

「いたずらにうまく話そうなんて思わなくても、自分が本当に感じたことや思ったことを素直に話せば相手に伝わる」というのが、私が大学時代にいろいろな経験をして学んだことです。就職面接の時も、肩ひじ張らない自然体なところが評価されたそうです。就職活動で悩んでいた時も、素直に人に助けを求めると、日本大学法学部の先生や先輩、友人など、手を差し伸べてくれる人がたくさんいました。人の大切さも学んだ4年間でした。

社会科学系女子になる!

3

OG(公務員)

人や地域に貢献していることを実感



大学での4年間は、自分のやりたいことが何でもできる期間です。私はゼミナール活動やアルバイトをして、自分に適している仕事を見つけました。進路決定にも役立つので、サークル活動や海外留学など、いろいろなことを経験してほしいですね。

千葉県 松戸市役所 建設部 建設総務課 主事 西村 志麻 さん (2012年3月 管理行政学科(現・公共政策学科)卒業)

私は大学で都市政策を勉強していました。公務員は、その学びが直接結びつく仕事です。地域のために貢献し、地域と共に生きている実感があります。就職活動中、大学から松戸市役所に勤務するOBの方を紹介していただいたことが、松戸市役所を選んだきっかけです。実際、職場には日本大学の先輩方が大勢いて、OB・OG会も定期的に開かれています。いろいろな相談に乗ってもらったり、仕事でもバックアップしてもらえるのは心強いですね。

採用試験から今後の仕事にまで活きる大学の学び

大学4年間 将来像が明確になった

入学した頃から、将来は人に役立つ仕事がしたいと考えており、課外に開講している公務員講座の受講をきっかけに公務員をめざそうと決めました。また、3年次からは都市政策のゼミナールに所属し、まちづくりなどの地域に関わる政策の学びを深めるうち、地域に根ざした仕事をする公務員になりたいと思うようになりました。そして公務員試験対策講座や面接指導などのおかげもあり、松戸市役所の職員採用試験に合格することができました。

現在 大学時代の経験を活かす

現在の部署は、道路の財産面の管理をすることが仕事です。道路の官民境界を決めたり、道路を使用する際に必要な占用許可などをするほか、台風等の災害対応も行っています。大学時代、ゼミナールの活動で、学生が自分たちで調査・立案した政策を提案する、地方自治体主催の政策提案フォーラムに参加しました。また、授業で都内の区役所でのインターンシップに2週間、現場体験をしたのですが、この経験も仕事で大いに役立っています。

将来 施策を提案したい

職員になってからまだ異動がないので、今後は地域振興や子育て支援などにも関わってみたいと思っていますが、どの部署に異動しても、住民の方々に貢献できるように頑張りたいですね。私の勤務する市役所には、部署を越えて職員が自分の考えた施策を提案できる、職員提案制度があります。公務員になって4年目にもなるので、これからは大学での学びを活かして、私も施策の提案にチャレンジしたいと思っています。

社会科学系
女子になる!

4

就職

ゼミナールでの力が就職に結びついた

社会科学系女子になる！

私の就職に向けての4年間

1年次 社会について幅広く学ぶ

経済や政治など、社会について幅広く学びたいと思い、政治経済学科に入学しました。その頃はまだ将来の明確な目標がなく、幅広い分野を勉強しました。また、中学時代からクラリネットを続けていたので、日本大学管弦楽団に入り、サークル活動にも取り組みました。

2年次 将来の進路が見えてくる

勉強では、政治の面から社会の仕組みを知りたいと考えていました。一方で、日本の経済についても学び、かつて金融関係の仕事をしていた母から話を聞いたり、アルバイトで社会経験をしたことなどがきっかけで、進路として金融業界に興味を持つようになりました。

3年次 サポートを受けながら就職活動

就職活動を前に(当時は3年次の12月から就活解禁)、就職マナーや企業研究などの就職指導課による就職対策講座を受講しました。生きた経済の動きを知るため日経新聞を読んだり、所属する政治学原論のゼミナールでの活動にも一生懸命に取り組みながら、就職活動をスタートしました。

4年次 就職内定を獲得

めざす銀行に就職内定し、仕事で必要となる証券外務員の資格を取得するために勉強しています。将来は、お客さまとの会話を大切にしながら、お客さまのニーズを的確にとらえた、満足していただけるサービスを提供できるような銀行員をめざしたいと思っています。



入学前は、法学部は男性が多いイメージがあり、男女比を気にしていました。でも入学してみると女性も多く、学部を越えたサークル活動で友人がたくさんできました。楽しい雰囲気の中で社会について学ぶことができたのでとても良かったと思います。

2015年3月 政治経済学科卒業 岡田 奏恵 さん 2015年4月より三井住友銀行に勤務

ゼミナールでの思い出は、日本の参議院の必要性についてグループで研究し、学部祭のフォーラムで発表したことです。ゼミナールでは普段から、メンバーの意見をきちんと聞きながら自分の意見を伝え、ディスカッションした上で答えを出していくことを大切にしていました。就職内定した後で、採用担当の方から「しっかりした自分の意見を、筋道を立てて述べていたことも評価できた」と伺い、ゼミナールで培った力が就職活動に大いに役立ったと実感しました。

5

留学経験

中国と日本の架け橋になりたい

日本に留学経験のある中国の先生方はとてもフレンドリーですし、中国の学生も皆、日本人である私に優しく接してくれました。また学生たちは日本のアニメやJ-POPもよく知っていて、反対に私が彼らから教えてもらうくらいでした。



2015年3月 経営法学科卒業 **松倉 佳穂 さん** 2013年9月より中国・山東大学に1年間留学

留学中、現地の学生との議論を通して、「歴史問題とは関係なく、中国と日本は普通に交流をしていくべきだ」という声がたくさんあることを知りました。私も、そう思います。お互いのことをよく知り、率直に話し合っ、良いところは認め合うことが大切です。そのようなことを学んだ留学体験を活かし、さらに中国語を磨いて、通訳や翻訳の仕事がしたいと思っています。国同士の関係に関わらず、通訳や翻訳といった存在は常に必要だと思うんです。

私の留学を通しての成長

留学前 中国をもっと知りたい

親が中国相手の貿易会社を経営していて、私も国際ビジネスに興味を持つようになりました。中国を旅行したことはありましたが、大学で2年間中国語を学び、その語学を活かしてもっと中国のことを知りたいと思い、留学を決めました。語学力をさらに向上させること、それに友だちをたくさんつくることも、留学の目的でした。留学準備として、日本大学法学部の中国人留学生会に参加したり、中国の映画や音楽にも親しむようにしました。

留学中 大学生の意識の違いを実感

山東大学法学部で現地の学生と一緒に授業を受けたのですが、中国では大学生はエリートです。皆とても勉強熱心で、朝から夜遅くまで、とにかく勉強第一の生活です。このようなところからも、中国と日本の社会の違いや、大学生の意識の違いなどを考えさせられました。また、住まいは留学生寮だったので、イタリア、ロシア、タイ、ベトナムなど各国の留学生の友人ができ、彼らとは今でもSNSを利用して連絡を取り合っています。

留学後 次は中国の大学院に進学

海外生活で積極性が身についたためか、家族や友人から「前より明るくなった」と言われました。語学力も向上しましたが、言葉がうまくなることは、それまで知らなかった世界が広がるということでもあります。そういう意味では、まだまだ知らないことばかり。将来はビジネス通訳や翻訳の仕事がしたいので、語学とともに中国のことをさらに深く学ぶために、これから政府奨学金を申請して、今度は中国の大学院に進学しようと考えています。

社会科学系
女子になる!